

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:17.

病棟看護師の放射線治療に関する教育的ニーズ

平 千亜紀, 村上 舞, 塩谷 今日子

病棟看護師の放射線治療に関する教育的ニーズ

旭川医科大学病院 5階東ナースステーション

○平千亜紀 村上舞 塩谷今日子

【目的】前年度の先行研究で病棟看護師の放射線治療の知識の曖昧さが明らかとなり、教育的介入の強化に取り組んだ。そこで、放射線の基礎知識に関する教育的介入の評価から、病棟看護師の放射線治療に関する教育的ニーズを明らかにし、看護力の向上に向けた示唆を得ることを目的に調査したので報告する。

【方法】1.研究期間：2017年8月～2018年4月 2.対象:病棟看護師20名 3.アンケート調査（アンケートは独自に作成した選択記述式。調査項目:基本属性・学習会の理解状況・教育的介入の理解状況・自己学習状況・看護で困ったこと・学習の希望）4.分析方法：1) 選択式は結果を単純集計した。2) 自由記載はカテゴリー分類し、検討した。

【倫理的配慮】本研究は研究者の所属する倫理委員会の承認を得て行った。

【結果】アンケート回収率95% 1.学習会1) 理解状況：全項目で「放射線治療の有害事象」「位置合わせの線の確認」「皮膚炎悪化予防のポイント」「退院時指導のポイント」が「理解できた」が8～10名であった。「放射線治療のしくみ」「治療に用いられる放射線」「放射線のエネルギーと皮膚炎」「照射の方法」は「学習会の時は理解できたがよく覚えていない」が5～7名であった。「理解できなかった」は0名だった。2) 印象に残った内容：「位置合わせの線の管理」「放射線治療の一連の流れ」など〈基礎知識〉に関する内容が最も多かった。3) 感想：「正しい知識が必要で患者にきちんと説明していかなければと思った」など。2.教育的介入：受けた15名。受けていない4名 1) 理解状況：各項目で「理解できなかった」は0名。「予想される有害事象と出現時期」「有害事象の悪化予防対策」「退院時指導」で「理解できた」が多かったが「その時は理解できたがよく覚えていない」も数名いた。2) 印象に残った内容：「有害事象の出現時期に合わせた患者指導」「照射野の確認方法」「軟膏塗布方法」などであった。3) 感想：「自宅でも継続可能な方法でと教えてもらった」など。3.自己学習：「新たな治療が開始される時」や「放射線治療を受ける患者を受け持った時」「不明点がある時」など必要に応じて学習している。4.困ったこと：皮膚炎に対する対処や治療期間の長期化に伴う精神的ケアなどがあった。

【考察】学習会や教育的介入は基礎知識の不足の改善に繋がった。しかし、有害事象悪化予防や患者指導に関する内容が曖昧さで、継続的な学習が必要と考える。また、自己学習では放射線治療を受ける患者が常にいる状態ではないため、都度学習となっていることが明らかになり、このことが知識の曖昧さに繋がっている可能性が高いと考える。学習会や教育的介入で印象に残っている内容は〈放射線治療の基礎知識〉〈有害事象〉〈患者指導〉に関する内容が多く、学習が個々の治療の理解・患者ケアに結びつけられていない可能性もある。知識と実践が結びつくような教育を検討することが必要であると考えた。

【結語】学習会は放射線治療に関する基礎知識の理解につながったが、一時的理解で必ずしも看護実践に結びついていないことが明らかになった。そのため、継続的な学習とニーズに合わせた教育的介入の検討する必要性が示唆された。